

みなさんこんにちは。

当初の予定より2週間遅れての、1学期終業式です。今日も蒸し暑いので、放送による終業式としました。また、ペーパーパワーポイントのプリントを1枚配ってもらいましたので、必要に応じてご覧ください。（配付したプリントは最後に掲載）

この1学期、前半は長い臨時休校で部活動も休止、後半は学校は再開し、授業はほぼ通常どおりとなりましたが、体育祭はじめ、いろいろな行事を行うことができませんでした。新型コロナウイルスの影響で極めて変則的な1学期となりました。

でも、本校のある先生が、こんなことを言っていました。「一見、いいと思うことでも、必ずいい面と悪い面がある。」これは、例えばスマホは便利だけど、賢く使わないと勉強できなくなるとか危ない目に遭うとか、そういう様なことです。そして、その先生曰く、「だから、一見、悪いと思うことでも、必ずいい面もありますよ。」と言っていました。なるほど、考え方が前向きで なかなかいいことを言うなあと思いました。

一例を挙げると、皆さんご存じの、アイザック・ニュートンは、英国のケンブリッジ大学で学んでいた若い時期、ペストの大流行により、途中1年半ほど大学が閉鎖になり、故郷の実家で過ごしています。（スライド1） このとき、それまで頭に浮かんでいたアイデアについて、じっくりと論理的に筋道を立てて考えを深めることが出来ました。

こうして、大学が休講中の期間に、「万有引力の法則」の発見をはじめ、光の研究、数学の微分積分法など、多くの歴史的発見を行いました。後に、ニュートンはこの期間を『創造的休暇』と呼んでいます。

皆さんは、休校になったり部活動がなかったり、いつもどおりではない1学期でしたが、でも、少しゆとりを持って過ごすことが出来たのではないのでしょうか。勉学も自学自習で、理解がより深まった人もいると思います。皆さんの様子を見てみると、今年度、ここまでとても順調に過ごしていると思います。

今後も、やむを得ず様々な予定が変更になることがあるかもしれません。そんなときは、「一見、悪いと思うことでも、必ずいい面がある。」と、何事も前向きに考えるようにしてみてください。結果として大いに自分にプラスになると思います。

さて、話は変わります。長岡高校は来年、創立150周年を迎えます。在校生である皆さんの中には、あまり関心がない人もいるかもしれません。しかし、150周年を迎える「長岡高校」に、皆さんがお客さんとして乗り合わせているわけではありません。

皆さんが在学する3年間の長岡高校の歴史は、まさに今、皆さん自身が創っているものだからです。

皆さんはこれまで、私の入学式の式辞を初め、「長岡高校の伝統精神」について話を聞く機会があったと思います。(スライド2) 皆さんご存じのとおり、本校に脈々と受け継がれている伝統精神とは、「剛健質樸」「豪爽快活」「和而不同(和して同ぜず)」の3つです。私は毎年の入学式で、皆さんに、「これらの伝統精神を踏まえて、毎日の学校生活をしっかりとした姿勢で過ごしてほしい」と言っています。

最近、長岡高校がいよいよ150周年を迎えること、また、新型コロナウイルスが世界的に広がっていることなどから、ちょっと考えたことがあります。この、3つの伝統精神は、本校にとって、あるいは同窓生にとって、一番大切なことなのだろうか、他にもっと大切なことがあるんじゃないだろうかということです。

3つの伝統精神は大切なことには違いないのですが、これまでの長岡高校生、皆さんの大先輩たちが、さきほどの3つの伝統精神を受け継ぎながら、一体何を目指してきたのか。身体は強くたくましく、心は素直に正直に、と毎日を過ごしながら、何を目指してきたか。

そう考えたときに、「ああそうか」と気がついたことは、これも、皆さんご存じのとおり、この長岡高校は、長岡藩「米百俵」、人材育成の精神を受け継ぎ、明治5年に創立した長岡洋学校を起源としているということです。当時の、この学校の教師、関係者、地域の人々の思いは、「人づくりはまちづくり」、つまり、将来のための教育の重要性を理解し、日本や世界で通用する人物を育成することにあります。また、当時の生徒たちも真剣に学び、近代日本の発展や長岡の発展に貢献する人物に育っていきました。

そして、(スライド3) 現在でも長岡高校は、「人格高潔で人間的魅力に富み、世界を舞台に指導的役割を果たすことのできる人材の育成」を目指しています。具体的に言えば、皆さんには、主体性を持って、大きな夢や高い志を持って、これからの未来を切り拓く人間になってほしい、社会に大いに貢献をして、将来の長岡や日本、世界を創っていく人間になってほしいと思っています。

連日、新型コロナウイルス関連の報道が流れています。皆さんの中には、この先どうなるんだろうと思う人もいるかもしれません。おそらく2か月先、3か月先も、現在と大きく状況は変わらないんじゃないかと思います。

でも、3年先、5年先が、今と同じとは思いません。ワクチンや特效薬が普及しているかもしれませんし、ウイルスの弱毒化により普通の風邪と同じになるかもしれません。どうなるかはわかりませんが、いずれ必ず、新型コロナウイルスの課題は収束します。

だからこそ、皆さんには、将来の自分の進路について真剣に考えた上で、よりよい日本や世界を創り上げていく一員となるんだという自覚を持ち、今、日々の学校での活動

や毎日の生活をしっかり送る、未来はどうなるんだろうかではなく、自分たちが良い未来を創ることを考える、これが、長岡高校生の伝統なのではないかと思うのです。

とはいえ、まだ、将来どうするか、具体的なことまで定まっていない人が大半だと思います。そこで、話の最後に、何をやるにも絶対うまくいく話をします。

何か行動しようとするときに、その動機を自分に問うて、確認するのです。

(スライド4)「動機善なりや、私心なかりしか」

善とは、誰から見てもそうだということです。自分の利益や都合、格好などというものでなく、自他ともにその動機が受け入れられるものでなければなりません。動機が善であり、私心がなければ、最終的には必ず成功するというものです。

これは、1年生は入学する前の話なのですが、半年ほど前、2、3年生の皆さんにお話しした「人生方程式」の、稲盛和夫氏の哲学です。稲盛氏は京セラの創始者ですが、日本に通信会社がまだ大手の1社しかない時代に、外国に比べて長距離電話の料金が高すぎることに問題意識を持ち、自分が通信業界に新規参入することで長距離電話料金が安くなれば、国民のためになると考えました。しかし巨大な大手通信会社を相手にした新規参入は、とてつもないリスクを伴います。稲盛氏は、半年間、「動機善なりや、私心なかりしか」と自分に問い続け、「国民のためにぜひともやるべきである」という強い信念を持ち、経験のない通信業界に参入することを決意して、第二電電を設立しました。この第二電電が、現在のauです。

皆さんは、高校生である現在も、大学へ行ってからも、社会へ出てからも、少し大きな事をしようとするとき、「動機善なりや、私心なかりしか」と自問してみましよう。動機が善で私心がなければ、うまくいくかどうか悩む必要はありません。必ずうまくいきます。

主体性を持って、大きな夢や高い志を持って、これからの未来を切り拓く人間を目指してください。社会に大いに貢献をして、将来の長岡や日本、世界を創っていく人間を目指してください。遠慮する必要はありません。皆さんの健闘を祈ります。

最後に一言、交通事故に十分気をつけてください。熱中症にも気をつけてください。

新型コロナウイルス感染症対策については、人に言われてするものでなく、よく考えて、自分で判断して感染拡大防止に努めてください。

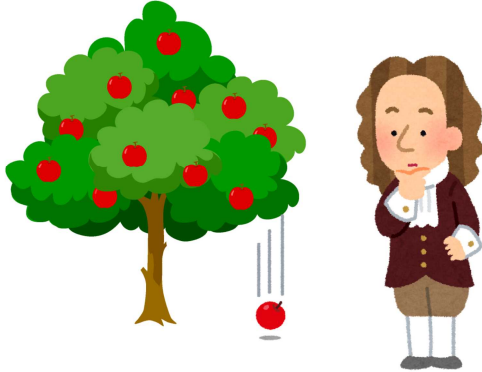
今年は少し短い夏休みですが、一日一日を充実させれば、かなりのことができます。有意義に過ごしてください。

以上で、今日の私の話を終わります。

ニュートンの「創造的休暇」



休校



ただし、ニュートンが『庭のリンゴの木からリンゴが落ちるのを見て万有引力を思いついた』という話は、後のだれかの作り話らしい

1



伝統の本質は？ 先輩たちが求めたものは？

「人格高潔で人間的魅力に富み、世界を舞台に指導的役割を果たすことのできる人材」

- ・主体性
- ・大きな夢
- ・高い志
- ・未来を切り拓く
- ・社会に貢献
- ・「長岡」「日本」「世界」を創っていく

3



長岡高校の伝統精神

- ・「**剛健質樸**」(長岡藩の藩風)
身体は強くたくましく 心は素直に正直に
- ・「**豪爽快活**」(互尊翁 野本恭八郎の提唱)
気性は大きくさっぱりと 行いは明るく元気よく
- ・「**和而不同**」(「論語」～井上円了博士 東洋大学創設者)
みんなと仲良くしながら、自分の考え方や生き方は大切に

『これらは、当校にとって一番大切なことなのだろうか』

2



動機善なりや、私心なかりしか

(稲盛和夫氏)

その行動の動機は誰から見ても善か
自分の利益や都合、格好などという
自己中心的な発想はないか

動機が善であり、私心がなければ
結果は問う必要はありません。
必ず成功するのです。



4

